

<日本経済の基調判断>

景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実に回復している。

輸出、生産
ともに増加。

企業収益は改善続
く。設備投資は増加。

個人消費は、
持ち直しの動き。

雇用情勢は、依然
として厳しいものの、
持ち直しの動き。

(先行き)

- ・ 世界経済が回復する中で、日本の景気回復が続くものと見込まれる。
- ・ 一方、今後の為替レートなどの動向には留意する必要がある。

<政策の基本的態度>

政府は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003」の早期具体化により、構造改革の一層の強化を図る。1月19日に、「平成16年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」及び「構造改革と経済財政の中期展望 - 2003年度改定」を閣議決定し、平成16年度予算案を国会に提出した。

政府は、日本銀行と一体となって、金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指し、引き続き強力かつ総合的な取組を行う。

今月の説明の主な内容

(1) 基調判断

「景気は、設備投資と輸出に支えられて、着実に回復している」

- ・2つのエンジン(設備投資と輸出)の回転続く
- ・横ばいだった個人消費に、持ち直しの動き
- ・失業率は既往最高水準からやや低下してきたが、雇用拡大が課題

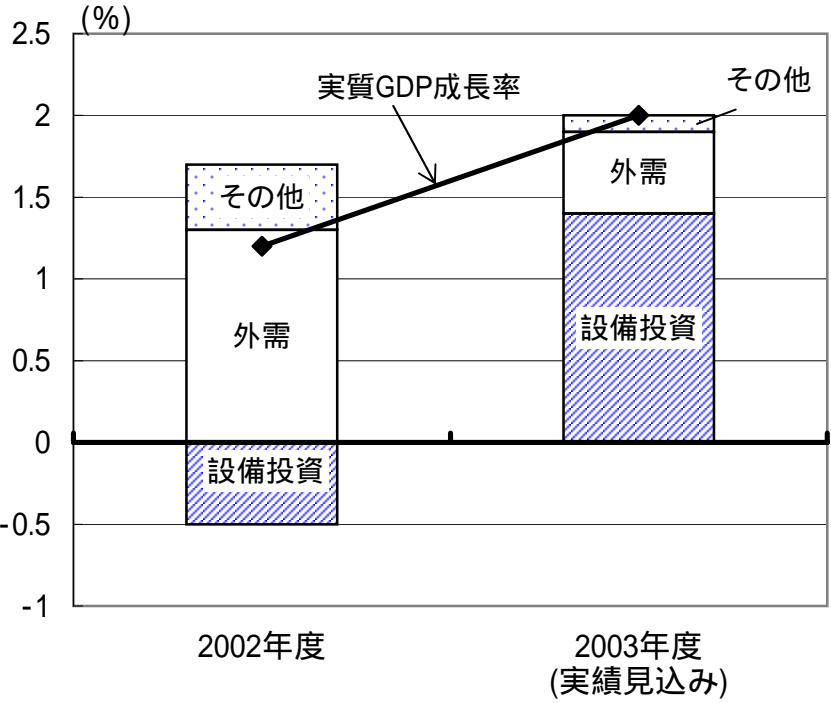
(2) 地域経済 = ばらつきはあるが、改善へ

(3) 世界経済

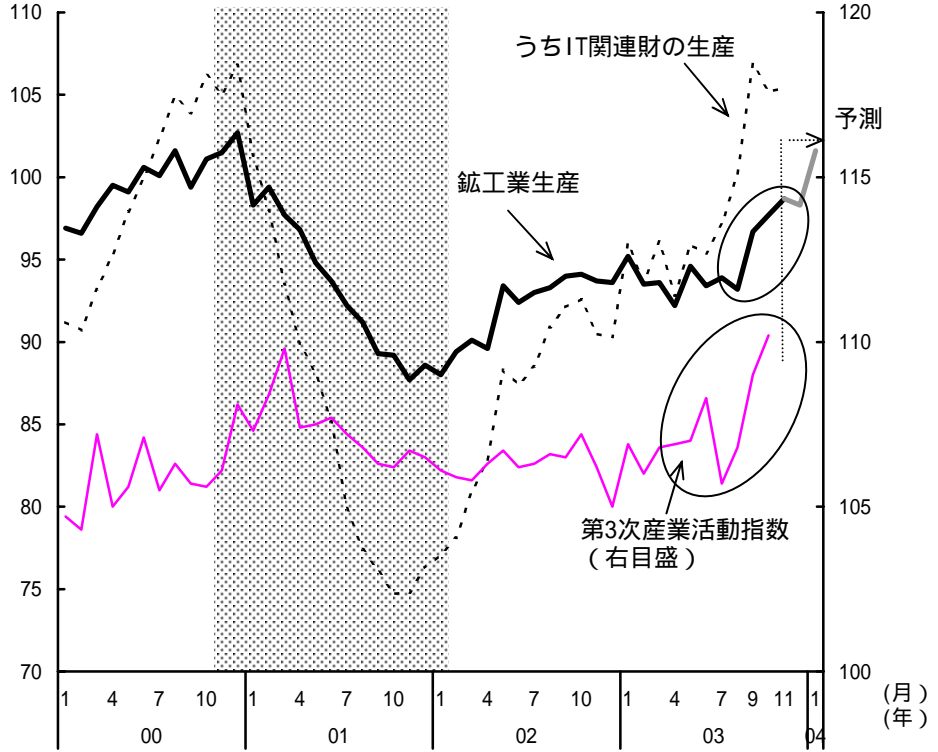
- ・アメリカ: 景気の基調強い。
- ・中国の高成長続く、他のアジア諸国も回復へ
- ・国際金融市場 = ドル安、株高、金利横ばい、商品市況上昇

(基調判断)
 景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実に回復している

景気回復を牽引している力
 実質GDP成長率への寄与度



生産は増加している



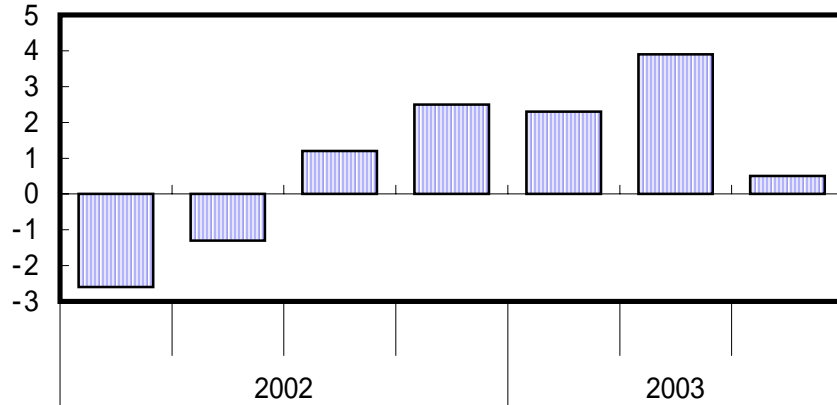
(備考)内閣府「国民経済計算」より作成。2003年度は政府経済見通しの実績見込み。

(備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」により作成。
 2. 季節調整済指数。鉱工業生産は2000年 = 100、第3次活動指数は1995年 = 100
 3. 03年12月、04年1月は、製造工業生産予測調査の増減率を用いて試算。
 4. シャドー部は景気後退期。

設備投資：当面増加傾向で推移の見込み

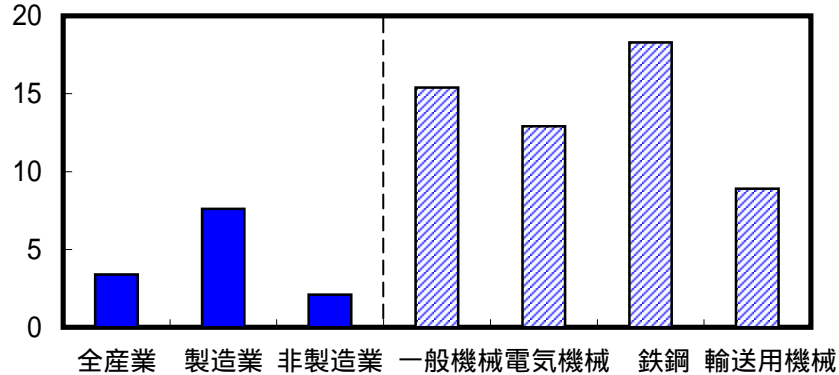
設備投資の実績：増加が続く

(実質GDPベース、前期比、%)



(%)

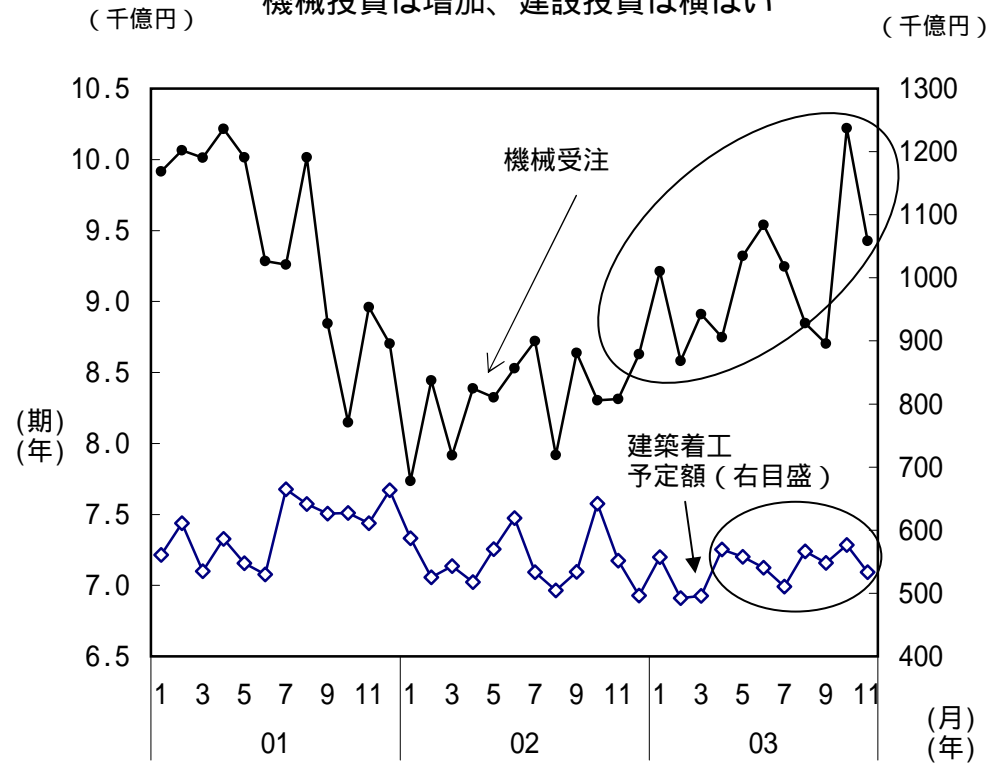
2003年度設備投資計画



(備考) 上図：内閣府「四半期GDP速報(QE)」より作成。
下図：日銀短観15年12月調査(全規模)より作成。

設備投資の先行き：先行指標の推移

機械投資は増加、建設投資は横ばい



(備考)

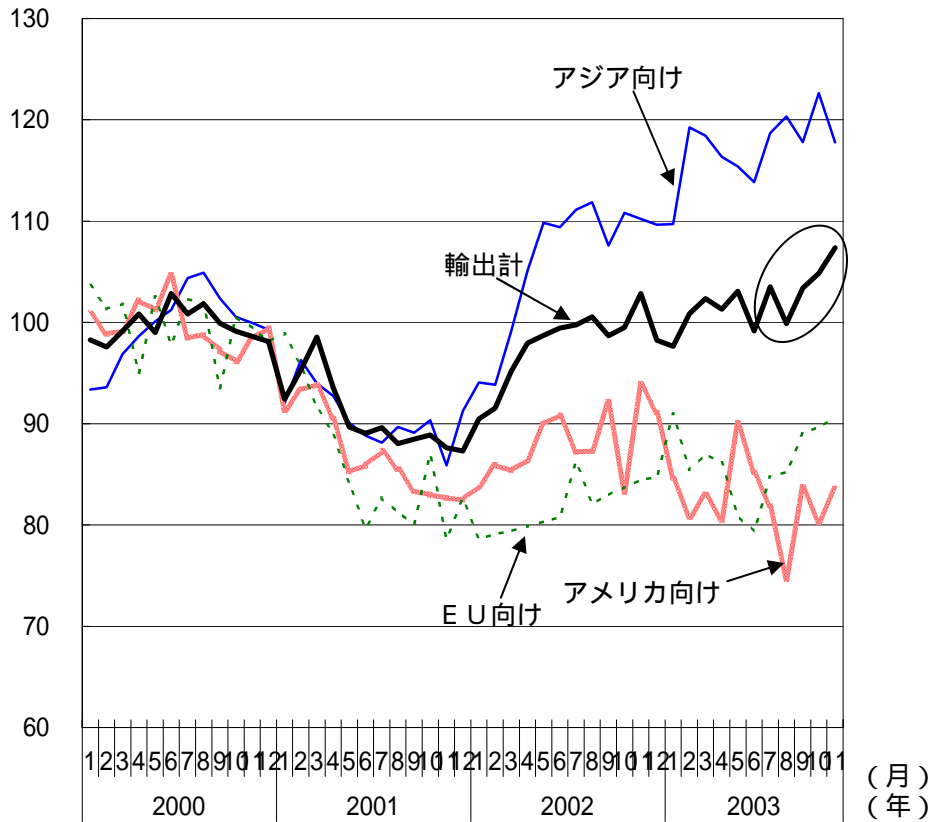
内閣府「機械受注統計調査報告」の民需(除船電)。
国土交通省「建築着工統計調査」の建築工事費予定額。
季節調整値。

世界経済の改善で、輸出の増加続く

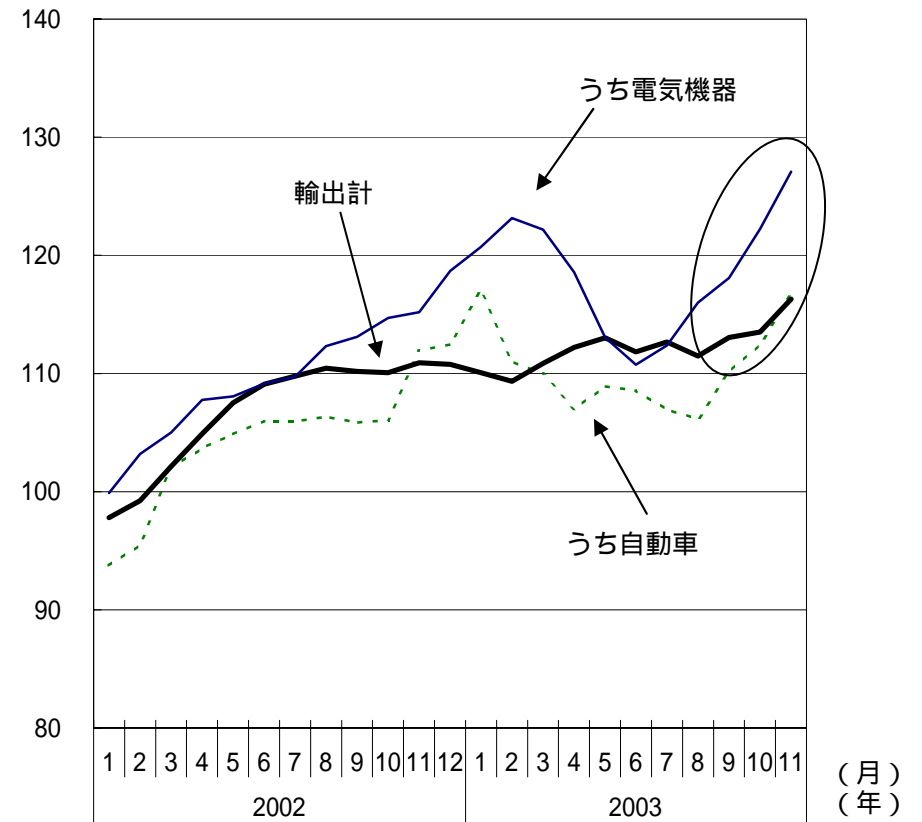
輸出数量の推移

- 輸出は電気機器・自動車を中心に増加 -

(2000 = 100)

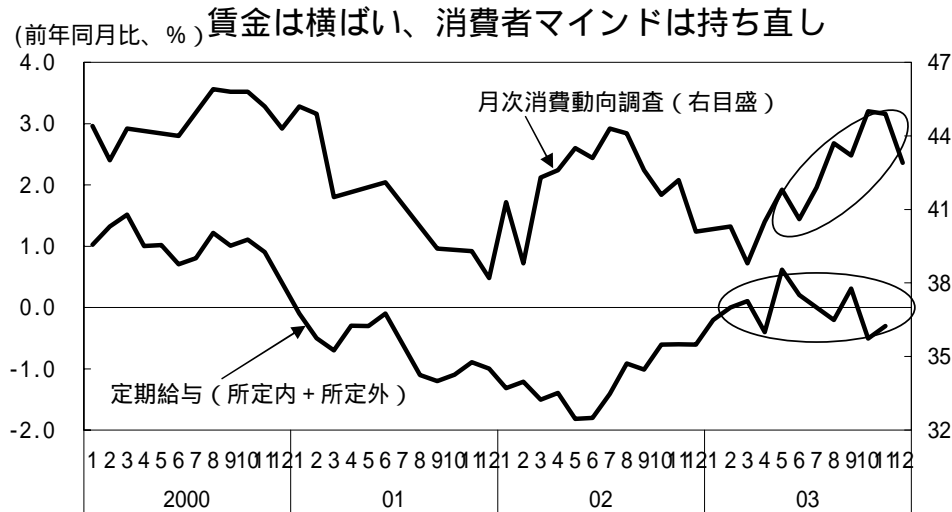
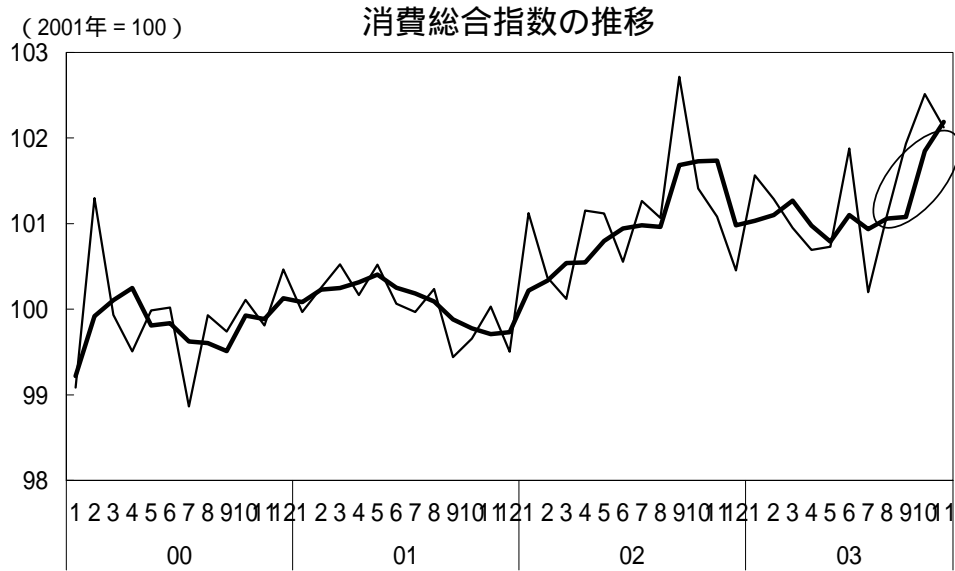


(2002/1 = 100)



- (備考) 1. 財務省「貿易統計」により作成。季節調整値。
2. 右図は2002年1月 = 100、後方3ヶ月移動平均。

横ばいだった個人消費に、持ち直しの動き



ヒアリング情報でみた最近の消費動向

街角景気(景気ウォッチャー調査)は改善傾向続く

(12月調査のコメントより)

- デジタル家電商品が単価を引き上げ(近畿、家電)
- 暖冬のため、重衣料が動かず、薄いセーター等がよく動いている(北陸、衣料専門店)
- ここ2～3年で荷動きが最も活発(東海、商店街)
- 長期の海外旅行が増えると期待したが、直前になっても一部に空席(九州、旅行代理店)

初売りの状況

都内の百貨店では、元旦の開店前に2万5千人が並んだ店舗や、初売りの売上高が開業以来最高となる店舗があった。

ある大手スーパーでは、福袋の売上は前年を上回ったが、全体としてみれば厳しかった。

一部の家電量販店では、例年の初売りに比べ、今年は少し高くても良いものが売れ、顧客の意識に変化がうかがえる。

六本木ヒルズでは、元日に18万人が来訪。

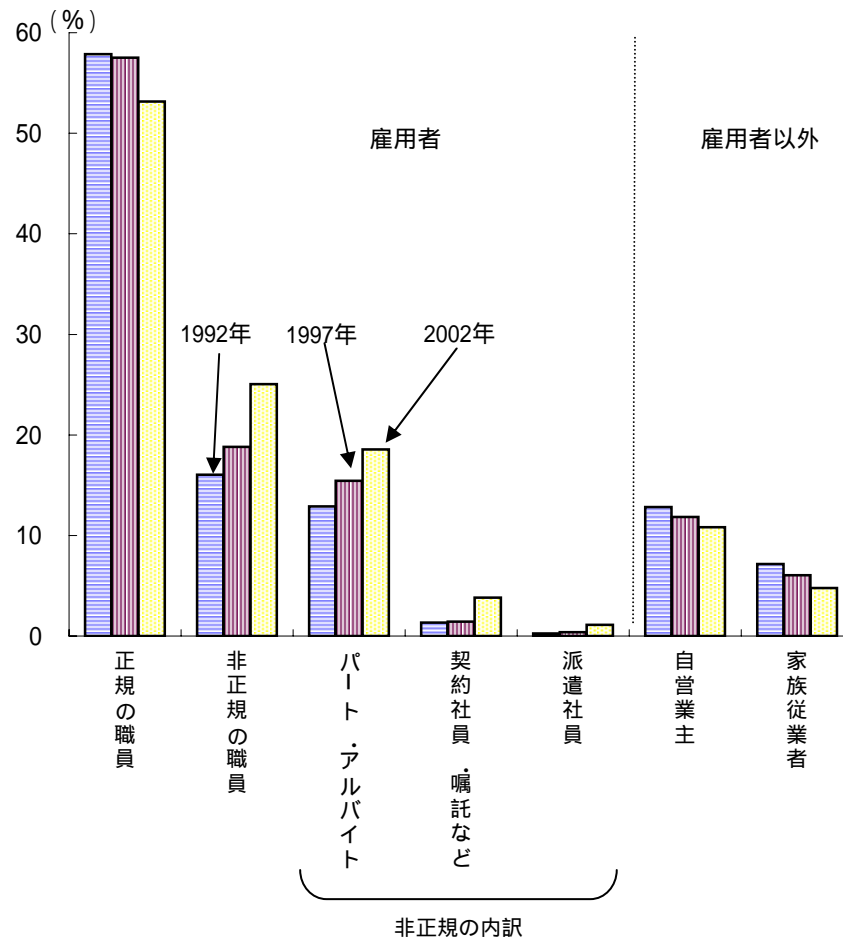
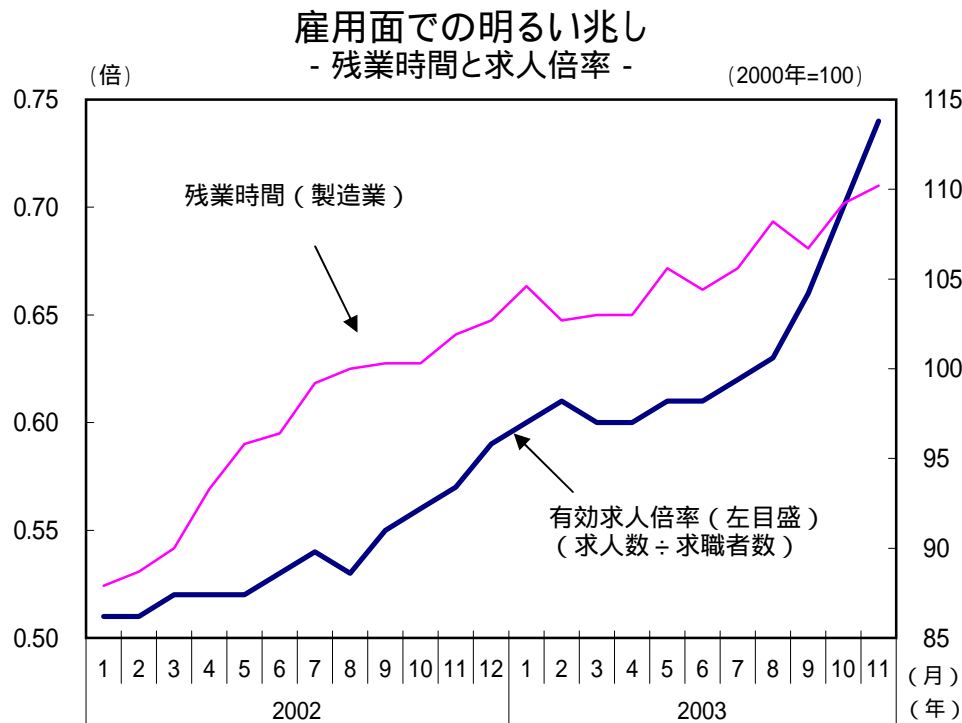
- (備考) 1. 消費総合指数は内閣府(経済財政分析担当)で作成。数値は季節調整値。太線は後方3ヵ月移動平均。
 2. 定期給与は、厚生労働省「毎月勤労統計調査」による。
 3. 消費者マインドは、内閣府「月次消費動向調査」により作成。
 4. 初売りの状況は、内閣府ヒアリング、新聞情報による。

雇用情勢：依然厳しいものの、持ち直しの動き

失業率：5.2% (11月)

- ・ 昨年1月は5.5%。8月から5.1~5.2%台で推移。
- ・ 雇用者数がこのところ弱含み。
失業率は低下したが、雇用の拡大が課題。

就業形態の多様化が進んでいる



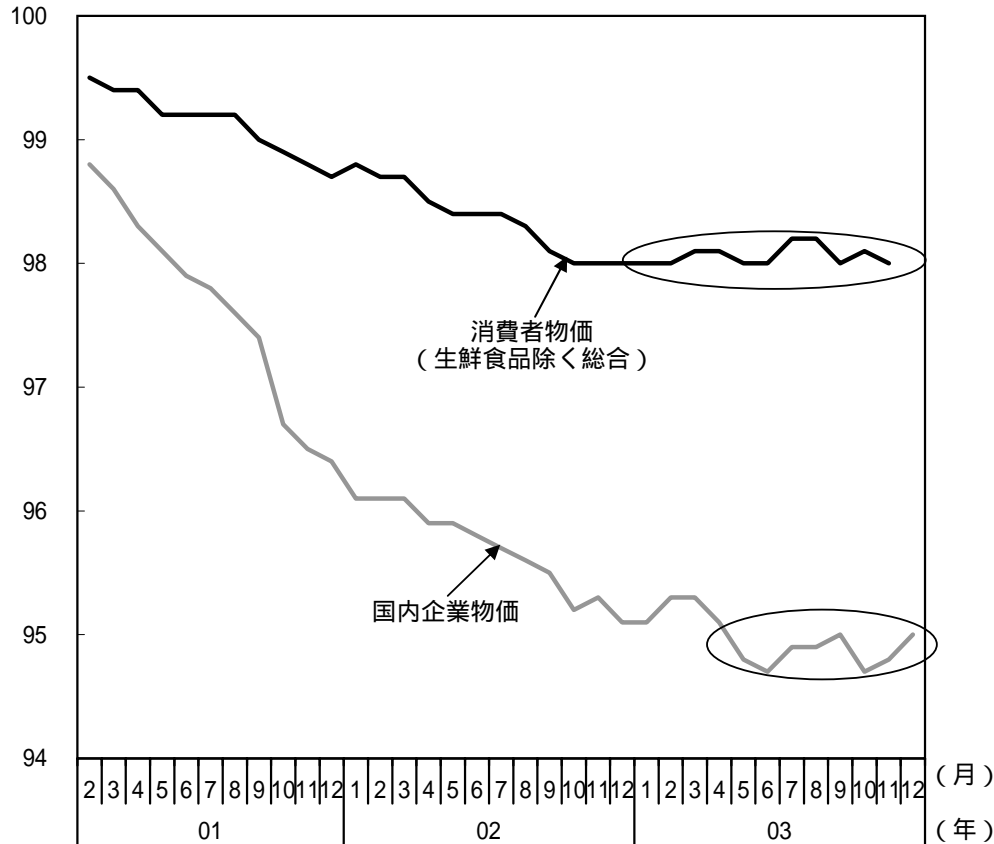
(備考) 1. 厚生労働省「職業安定業務統計」、「毎月勤労統計調査」により作成。
2. 残業時間は所定外労働時間。
3. 季節調整値。

(備考) 1. 総務省「就業構造基本統計調査」により作成。
2. それぞれの割合は、就業者数に占める割合を表す。
3. 正規の職員は役員を除いた者である。

デフレの現状

消費者物価、企業物価は、ともに横ばい
- 一時的な押し上げ要因も -

(指数、2000年 = 100)

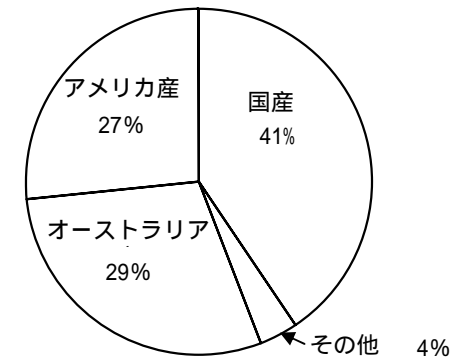


(備考) 1. 日本銀行「企業物価指数」、総務省「消費者物価指数」により作成。
2. 消費者物価は全国、季節調整済指数。

BSEが消費者物価に与える影響は小さい

牛肉消費のうち、アメリカ産牛肉のシェアは約3割と大きい。

牛肉消費の産地別シェア



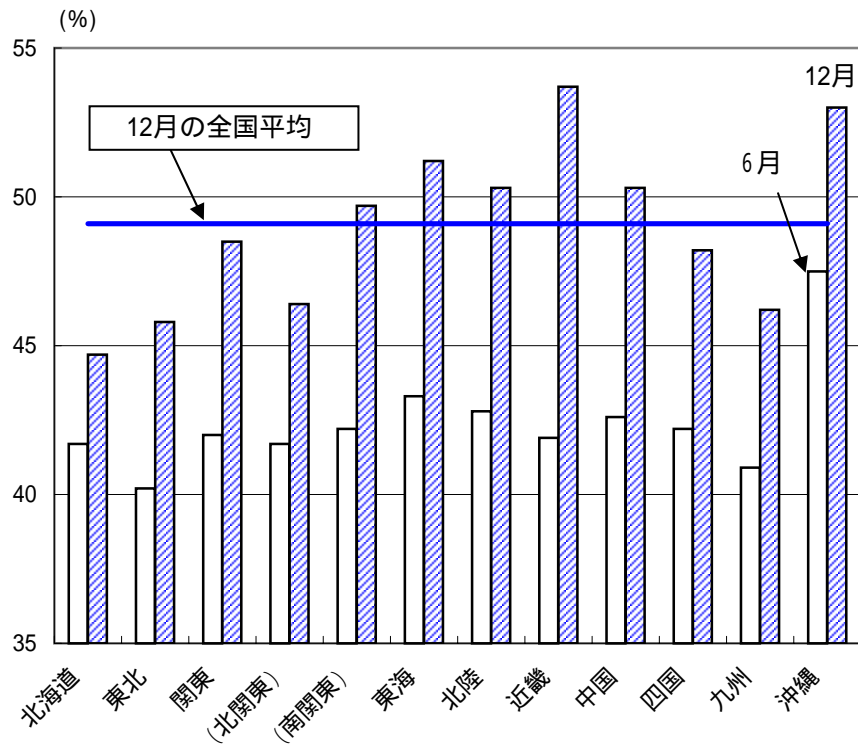
(前回のBSEの影響(01年9月))
牛肉価格の下落、豚肉・鶏肉価格の上昇が相殺し合い、消費者物価への寄与はプラス0.01%程度(発生後の1年間の平均)で、限定的。

(今回の場合)
感染ルートなどBSEに関する消費者の認識が向上したことから、牛肉等肉類価格の変化は小幅なものに止まり、物価全体への影響も限定的であると予想される。

(備考) 1. 牛肉消費の産地別シェアは、農林水産省「平成14年度食料需給表」、農畜産業振興機構「畜産の情報」による。
2. 四捨五入の関係上、合計は100%とならない。

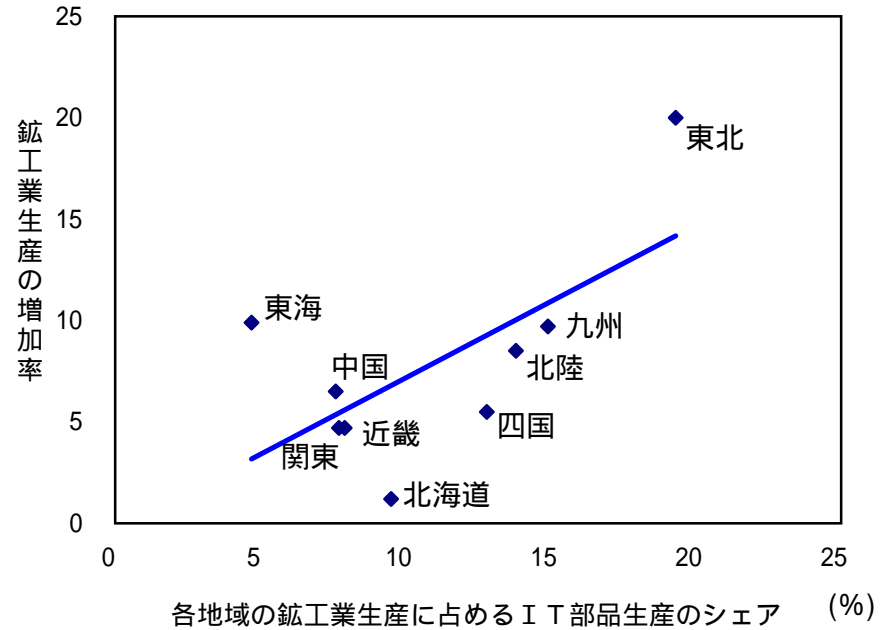
地域経済： ばらつきはあるが、改善へ

各地域の街角景気
- 景気ウォッチャー調査の現状判断DI -



- (備考) 1. 内閣府「景気ウォッチャー調査」より作成。
 2. 現状判断DIは、50%未満は「良い」 < 「悪い」、
 50%は「良い」=「悪い」、
 50%を越えると「良い」 > 「悪い」。

各地域の生産活動は、IT部品生産がリード

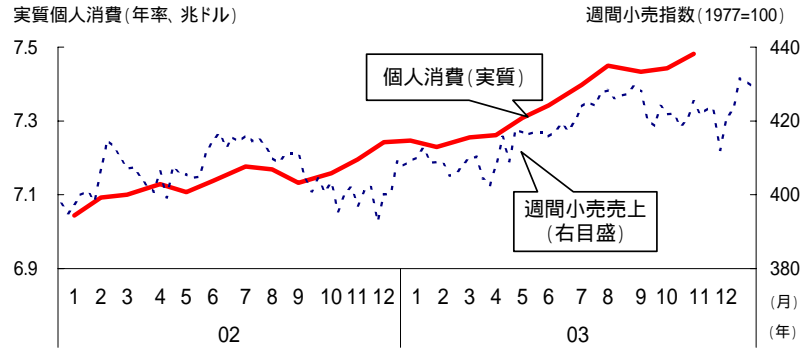


- (備考) 1. 経済産業省、各経済産業局等「鋳工業生産動向」により作成。
 2. IT部品生産は、電子部品・デバイス工業。各地域の鋳工業生産に占める電子部品・デバイス工業のシェアは、平成12年基準の付加価値額のシェア。ただし、北海道及び四国については、電気機械工業のシェア。
 3. 鋳工業生産の増加率は、01年10 - 12月期と03年7 - 9月期の比較。季調値。

世界経済の動向

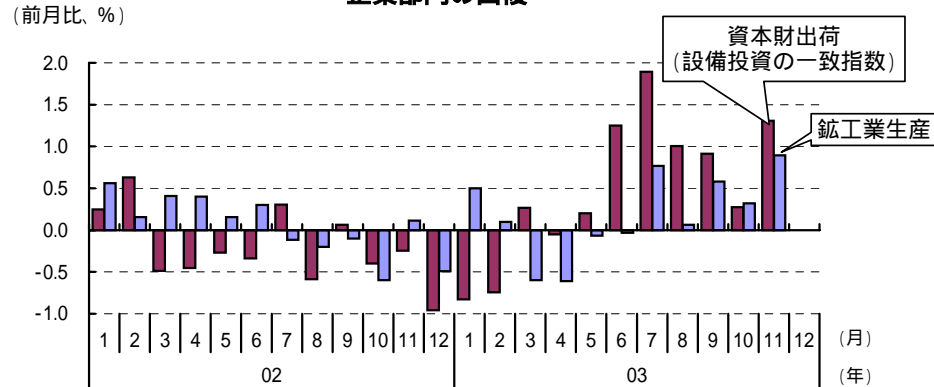
アメリカ:景気は力強く回復している

消費の増加続く



(出所) アメリカ商務省、ICSC - UBS調査

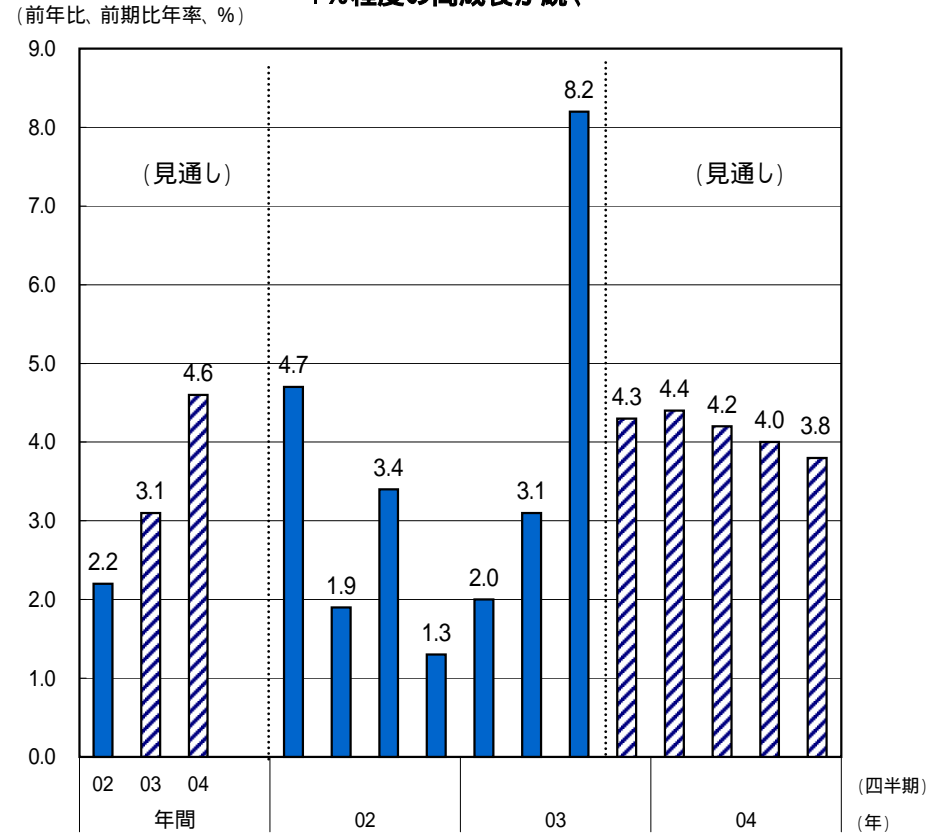
企業部門の回復



(出所) FRB、商務省

(注) 出荷は、非軍需資本財(除く航空機)出荷の3か月移動平均

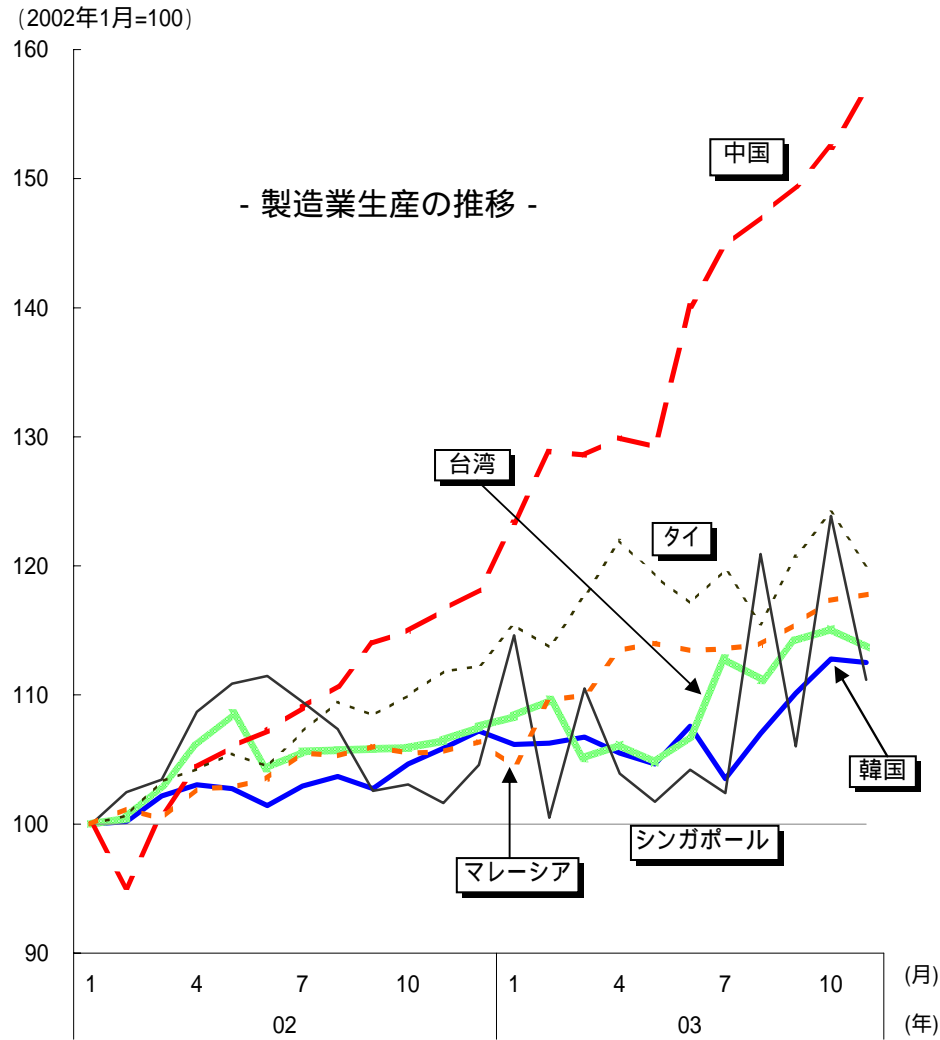
アメリカの民間エコノミストの平均的見方 - 4%程度の高成長が続く -



(出所) ブルーチップ・インディケーター(1月10日号)

世界経済の動向

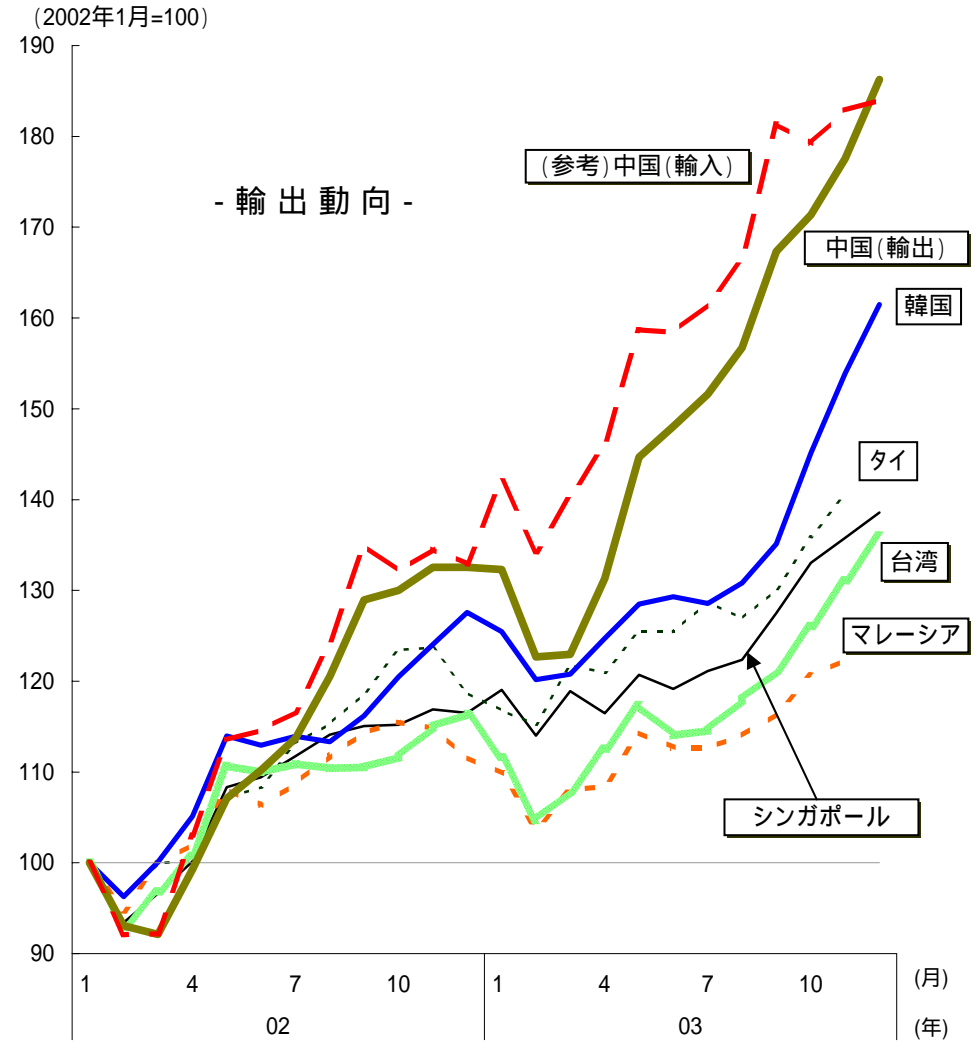
中国の高成長続く、その他アジアも着実な回復



(出所) 各国・地域統計

(注) 1. 中国は鉱工業生産付加価値額。

2. 季節調整値(中国、台湾、マレーシアは内閣府試算)。

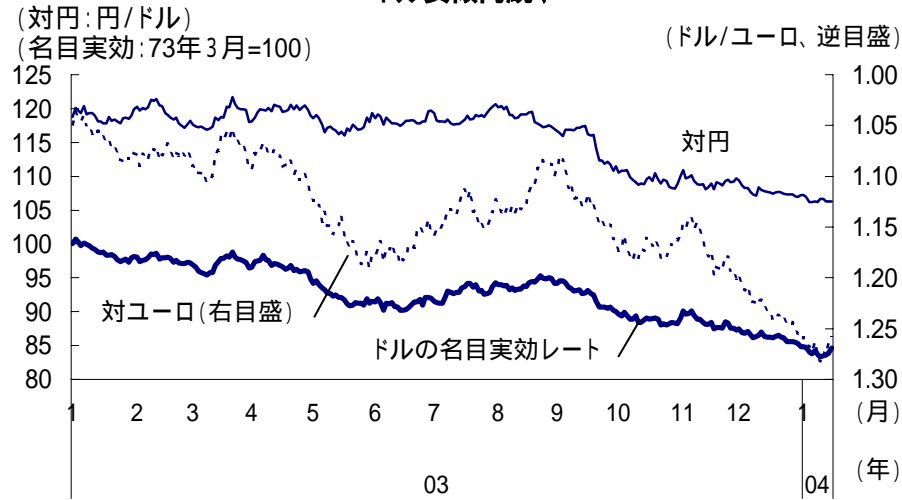


(出所) 各国・地域統計

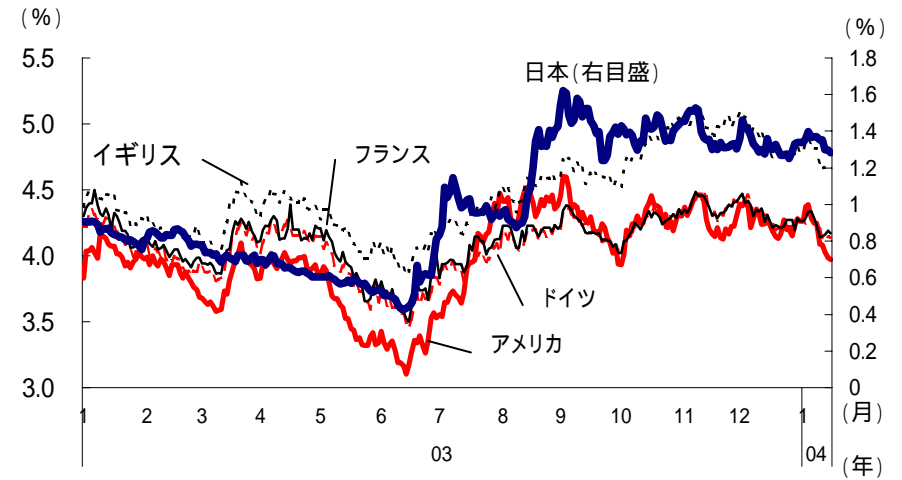
(注) ドル建て輸出額の3か月移動平均値。

世界経済の動向 - 金融市場 -

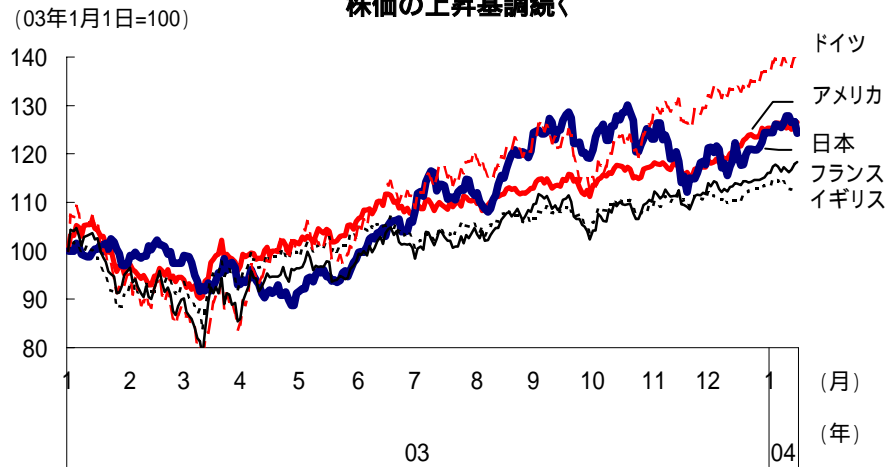
ドル安傾向続く



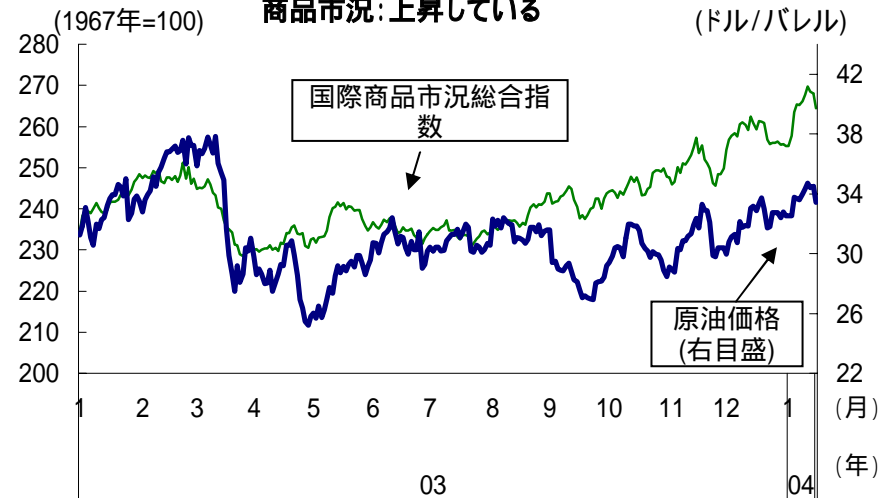
長期金利はほぼ横ばいで推移



株価の上昇基調続く



商品市況: 上昇している



- (注) 1. 名目実効レートは、FRB(連邦準備制度理事会)が発表している対主要通貨のレート。
 2. 長期金利は国債10年物金利。
 3. 国際商品市況総合指数はCRB先物指数。
 4. 原油価格はWTIスポット価格。